

今西先生との思い出

渡邊 幸太

まず、『教職教育センタージャーナル 今西先生退職記念号』の執筆に携わることができて、大変嬉しく光栄に思います。本当に感謝しています。今回の内容は、「今西先生との思い出」です。

大学1年生の時です。私は、ある授業で1番後ろの席に座り、友人と話し込んでいました。その時です。授業者の先生に物凄い勢いで怒られました。それが今西先生との出会いでした。「教員になろうとする人がそんな態度でよいのか。将来自分が先生になった時に、それで子どもや生徒を注意できるのか。」という意味合いだったと記憶しています。

大学2年生の時です。初めて、自分の意志でゼミを選びます。様々な分野に興味を持っていたため、どの先生に就くかかなり迷いました。ただ、教員を目指していたこともあり、第一希望は教職関係の今西先生でした。しかし、1年生の時のこともあり、かなり葛藤したことを今でも覚えています。ジレンマの中、勢いで今西先生を選びました。

ゼミの初日、今西先生はとても笑顔で優しくかったです。私は、1年生の時に授業で怒られたことを先生に話しました。そうすると、「その時は大勢の前でごめんな。ただ、教員を志す者があの授業態度はだめだ。教職を専攻している子でも、考えが甘い子が多いから。本気で最後まで頑張ろうと思う子には、最後まで応援するし付き合っていく。」との返事が返ってきました。最後まで今西先生に付いていこうと決めた瞬間でした。

大学3年生になると、卒業後の進路について考えます。もちろん小学校の教員になろうと決めていました。そんな時に、兵庫教育大学大学院の話が舞い込んできました。進学は全く考えていなかったため、すぐに今西先生と両親に相談しました。私の両親は、進学を反対しました。ただ、徐々に進学を意識し始めていた私の背中を押してくれたのは、今西先生でした。「時間やお金もかかる。両親にも迷惑をかけるだろう。ただ、あなたの人生はあなたが決めなさい。あなたはまだ自分のことを子どもと思っているが、もう二十歳を超えた立派な大人だよ。」と行っていただきました。その言葉で進学を決意を固め、親も説得しました。

4年生での教育実習最終日前夜。担当教員である今西先生は、私の研究授業の観察のため、香川県に来ていました。先生の宿泊先が私の実家の近くと知り、両親と挨拶に行きました。30分近く話しました。そこで最後に、両親に対して先生が、「渡邊君には大きな可能性がある。お父さん、お母さんも楽しみにしてください。私が期待している子ですよ。」と、言いました。私は涙がこぼれそうでした。

今西先生は、いつも優しく心に残る言葉を送ってくれる人です。その言葉に何度救われ

神戸学院大学 人文学部 人文学科卒業（平成25年度）
兵庫教育大学大学院連合学校 教育学研究科在学中
稲美町立天満小学校 教諭

たか分かりません。

大学院に入っても、今西先生との交流は続きました。大学卒業前に、執筆した卒業論文について、本に掲載するチャンスをいただきました。その後も、私が活躍できるように、論文投稿の機会があれば、すぐに話をくださいました。先生からの頼みやチャンスは絶対に逃すまいと食らいつきました。そして、2年間の修士課程を通して、6本の論文を執筆することができました。それも、今では博士課程まで進んでいます。

ただ優しいだけの先生ならたくさんいると思います。しかし今西先生は、卒業したからといって関係を絶たず、いつまでもつながりを持ってくれる本当に優しく思いやりのある先生です。数少ない恩師の一人です。

ここからは、書き方を少し変えて、今西先生の人物について書いていきます。

①紳士

先生は何といっても紳士です。決して年齢や性別に関係なく、人と接している印象です。どこかに入る時は一番にドアを開けてくださり、帰る時にはこちらが見えなくなるまで、手を振って見送ってくださいます。大人としての服装やお店でのマナーもたくさん学びました。

②グルメ

各ジャンルにおける美味しいお店を知り尽くしています。先生に連れて行っていただいたお店で、間違いはありません。また、お店の人と気兼ねなく話している姿も格好よく、印象に残っています。

③たくさんの趣味

先生と話していて、飽きることはありません。その理由は、話題がたくさんあるからです。授業や研究、仕事の真面目な話だけでなく、趣味や遊びなどのお話もできます。それも多くの人を引き付ける、先生の魅力だと思います。

④休みがない

先生は、いつ休んでいるのだろうか、ゼミ生で話し合ったことがあるくらいです。休日もお仕事をしているという話を伺ったことがあります。先生の名刺をいただいた時、その役職の多さに驚きました。本当に毎日忙しい様子で、私はいつも栄養ドリンクを持って、研究室を訪れていました。

まだまだたくさんありますが、この四つは特に先生の人物を表していると思います。

このお話をいただいた時には、今西先生との思い出はたくさんあるから、どんどんペンが進むだろうと思っていました。しかし、先生との思い出をどのように書けばよいか分からず、書き始めるのに2週間近くかかりました。それだけ今西先生との思い出は深く、簡単に書けるものではなかったということです。間違いなく、私の人生に影響を与えてくださった人です。

今西先生、これまで本当にお疲れ様でした。たくさん働いた分、たくさんゆっくりしてください。ただ、研究者として研究は続けてほしいと願っています。先生の執筆物を読むのが、私の楽しみだからです。そして、またお会いしましょう。先生のゼミ生として、また、同じ研究者・教育者としてお話ができたらと願っています。